

病 理 診 断 科

部長：原 重雄

神戸市民病院機構 多施設研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院では、過去 10 年に育った病理医は口腔病理専門医 1 名、病理専門医 6 名で、市中病院としてはかなり教育に重点を置いてきました。修了者たちは地域で高い評価を得ています。

当プログラムでは、豊富で多彩な症例と意識の高い臨床医に揉まれながら、基本的な態度、症例に対する立ち位置、正常構造に対する深い理解、肉眼所見から組織所見への連続的、立体的な理解と、定型例を素早く処理する技術、非定型例を拾うセンスと丁寧な検索方法、症例から学んで力を付ける方法、書物などから勉強する方法、批判的な書物の解釈、技師や臨床医との接し方、臨床医や他施設の病理医に対する症例提示能力、自分の行動が診療に及ぼす影響の認識、自分の能力の自覚などを身につけてもらいます。基本的な考え方や態度を身につけてしまえば、あとは経験と本人の努力次第です。

また、各施設の使命の違いによる病理医に要求される姿勢の違いや、臨床各科ごとの哲学や方略の違いを、病院と担当分野のローテーションで実感してください。

将来、君たちの中から連携大学や他病院で学生や初期研修医に病理診断の面白さを教える教官や、当機構の病院に戻ってくる病理医が育つことを願っています。

概 要

本プログラムでは、神戸市立医療センター中央市民病院を基幹施設として、同機構の西市民病院、西神戸医療センター、兵庫県立こども病院、加古川中央市民病院、神戸大学医学部附属病院病理診断科、京都大学医学部附属病院病理診断科を連携施設とします

各施設の特徴

神戸市立医療センター中央市民病院 <http://chuo.kcho.jp>

指導医 3 名（専門医 3 名）、専攻医 3 名、技師 9 名で業務をこなしています。市中大規模病院の特性を生かし、オーソドックスな疾患から症例報告可能な希少疾患まで様々な症例について経験を積むことが可能です。病理医としての経歴の早いうちに様々な症例の臨床病理像を経験しておきたいという方にお勧め出来る研修内容です。臨床医との距離が近く、数多く行っている院内カンファレンスを通じて、臨床医と対話する中で疾患の背景や考え方を知る機会が多いのも市中病院ならではのです。

スタッフ： 原 重雄

部長（病理、細胞診専門医、分子病理専門医）
平成 10 年卒

伊丹 弘恵

医長（病理、細胞診専門医）平成 17 年卒

山下 大祐

医長（病理、細胞診専門医、分子病理専門医）
平成 20 年卒

高橋 加奈

専攻医 平成 30 年卒

	山口 貴子	専攻医	平成 30 年卒
	大谷 宗理	専攻医	令和 2 年卒
症 例 数：	約 15,000 件、迅速 診断:約 1,000 件、 細胞診:約 11,000 件、解剖:約 30 件		

西神戸医療センター <http://nmc.kcho.jp/>

西神戸医療センターは神戸西地域の中核病院として、神戸西地域の安全、安心な医療の提供を目的に連携型病院として 21 年前に開院し、以来、地域医療支援病院、国指定がん拠点病院、結核治療病院（神戸市で唯一）として、救急医療や高度専門医療、結核医療、災害時医療の提供、地域連携の促進と地域完結型医療の推進に力を尽くしてきました。2016 年度までは別法人でしたが、2017 年 4 月から神戸市民病院機構に合併しました。病理は病理診断科、病理部として病理診断、細胞診、迅速診断、病理解剖を院内で担当しています。臨床各科とのカンファレンスなどを通して、常に臨床現場に参加することが必要と考えています。

スタッフ：	石原 美佐	部長代行（病理、細胞診専門医）	平成 14 年卒
	勝畠 浩紀	副医長（病理専門医）	平成 20 年卒
	浅井 沙月	医員	平成 28 年卒
	橋本 公夫	非常勤（病理専門医）	昭和 52 年卒
	組織診:約 8,400 件、迅速:約 450 件、細胞診:約 8,500 件、解剖: 約 13 件		

症 例 数：

西市民病院 <http://nishi.kcho.jp/>

地域医療支援病院、基幹型臨床研修病院として、24 時間救急、在宅医療支援にも力を入れている病院です。指導医 1 名と検査技師 5 名で、臨床とのコミュニケーションを重視して診断を行っています。

スタッフ：	勝山 栄治	部長（病理専門医、細胞診指導医、内科専門医）	昭和 54 年 卒
-------	-------	------------------------	--------------

症 例 数： 組織診:約 5,500 件、迅速:約 160 件、細胞診:約 4,400 件、解剖:約 10 件

加古川中央市民病院 <https://www.kakohp.jp/>

加古川中央市民病院は、2016 年 7 月に旧加古川西市民病院と旧加古川東市民病院が統合してできました。東播磨医療圏の基幹病院として、急性期および高度急性期医療を担う病院として地域医療に貢献しています。指導医 1 名と医師 1 名、検査技師 5 名で年間 8,900 例

の病理診断、4,000 例の細胞診、350 例の迅速診断を行っています。2018 年 4 月からは乳腺外科も新たに発足し、乳癌診療の新たな拠点として地域に貢献していきます。

スタッフ： 今井 幸弘 部長（病理専門医、細胞診指導医、内科専門医）昭和 62 年卒

市川 千宙 医師 平成 22 年卒

症 例 数： 組織診:約 8,900 件、迅速:約 350 件、細胞診:約 4,000 件、解剖:約 10 件

一 般 目 標

病理解剖を一人で行い、報告書が作成できるようになる。一般的な症例に関して、手術検体、生検検体、術中迅速の診断を一人でできるようになる。

行 動 目 標

1 年目(神戸市民病院機構)：	生検、手術材料に関して患者から検体が採取されてから診断に至る過程を理解する。著しく偏らない手術症例に関して肉眼診断を行い、臨床の要望、疑問点、腫瘍病期の決定に必要な情報を得ることが出来るよう自ら臓器の切り出しを行い、検鏡、報告する。必要に応じて、病変分布図の作成を行い、頻度の高い悪性腫瘍などの形態と生物学的性格、組織解剖学的背景との関係を理解し、併せて正常構造を深く理解する。特に手術症例については、検鏡、病変分布図の作成を行い、頻度の高い悪性腫瘍などの形態と生物学的性格、組織解剖学的背景との関係を理解し、併せて正常構造を深く理解する。指導医と共に解剖業務に従事し、解剖の手技、病態の把握、報告書作成の能力を身に付ける。
2,3 年目(神戸市民病院機構、大学、加古川中央市民病院)：	病理解剖業務、手術・生検症例の診断を行い術中迅速診断にも参加する。著しく偏らない生検例について自ら病理組織学的診断を行い、指導を受ける。病理診断に必要な免疫染色、特殊染色を自ら選択し、評価するとともに、診断に関連して臨床医とコミュニケーションを取る。院内、院外で症例提示を行い、プレゼンテーションの能力を身に付ける。特殊症例については、国内、海外へのコンサルテーションを行い、必要であれば症例報告についても執筆する。経験が著しく不足した領域に関しては他の施設でも研修する（小児例に関しては兵庫県立こども病院で研修する）。

専門研修プログラム

神戸市民病院機構病理専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL：

http://chuo.kcho.jp/department/clinic_index/others/pathology/information/resident

URL：http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident/medical

見学等問い合わせ先

原 重雄 : shigeo_hara@kecho.jp